

## この街にこの人あり

# 杉並に残る文化遺産を発見し、掘り起し、形にし、未来に伝える (一社)すぎなみ文化協会“まちづくり部会”の活動

杉並には、多くの文化団体があるが、官民協働のまちづくり団体として現在活発に活動している「一般社団法人すぎなみ文化協会“まちづくり部会”」がある。今回、創設時から関わり現在会長をなさっている土屋隆一さんにお話を伺った。



土屋 隆一さん

## ■これまでの経緯

2009年「すぎなみ文化研究会」としてスタート、「NPO 法人すぎなみ学びの楽園」に入り、「すぎなみ文化事業部」として「すぎなみ詩歌館かるた」を制作（2012年、杉並区受託事業）、2013年には「すぎぶん講座」を開講（逐次分野が増加、文学、歴史、まちづくり、美術、郷土、イベントの6講座となる）、2014年には、区民参加型郷土博物館分館展示にて「荻窪の昭和」を企画（延べ4,000名以上入場）、活動の基盤が作られた。2012年からは杉並に残る文化遺産を発見、掘り起し、形にし、未来に伝えることをテーマに、今日に繋がる「まちづくり部会」（初代会長小澤恵一氏、元横浜市都市計画局長）の活動を始めている。この間、組織形態としては2016年独立して一般社団法人すぎなみ文化協会（現在正会員22名）となり、協会全体としては「まちづくり部会」をはじめ、12の部会を擁するものとなっている。



「荻窪8の字ルート」マップ

## ■「まちづくり部会」の活動内容

現在の活動の中心は、(1) すぎなみガイドの会と(2) 荻窪まちづくりの会の活動。前者は、①「杉並まち歩きガイド養成講座」（2018年度：10回開講、参加者38名、2019年度：「杉並ガイド養成講座II」として杉並の自然・地形、文学、歴史、建築へと深掘した内容で上半期5回開講中）、②これを基礎とした「すぎぶん検定」とガイド登録事業および③ガイド実践事業からなる。後者では、①荻窪駅周辺での案内板設置推進（杉並区が助成）、②

荻窪駅西口周辺のデッキ化推進、③行政との意見交換会、④友好都市との地域間交流、加えて⑤荻窪南文化トライアングルを提唱して、「(仮称) 荻外荘公園まつり」(2019年3月末に「第4回三庭園めぐりと春の催し」開催、主催：すぎなみ文化協会、共催：杉並区みどり公園課) などを行っている。



杉並まち歩きガイド養成講座



荻窪歴史文化散策案内図

## ■今後に向けて

まちづくり部会の活動は発足以来、官民の対等なパートナーシップに基づく協働事業として行ってきた。これからは都市・地方間の交流・連携が重要であり、民間ベースでの交流事業を行っていききたいと考えている（南相馬、小諸、南伊豆など）。すぎなみガイド案内のたまり場として「すぎなみビジターセンター」を文化協会内に設け、杉並グッズの販売も行いながら、地元の市民にまちの魅力を伝え、また来訪者にとって巡りたくくなるような便利なサイン・案内板の充実を図っていききたい。これまで同様、地域区民センター協議会の活動、同メンバーとの交流は不可欠で一緒に連携していききたいとのメッセージを頂いた。

連絡先 一般社団法人すぎなみ文化協会まちづくり部会  
167-0051 東京都杉並区荻窪3-47-15-505  
ホームページ：<https://www.suginamivc.com>  
Eメールアドレス：[tsuchiya@galaxy.ocn.ne.jp](mailto:tsuchiya@galaxy.ocn.ne.jp)